米国大学視察報告
—SOTL（Scholarship of Teaching and Learning）運動を中心として—

視察の概要

＜視察の目的＞

新潟大学・大学教育機能開発センター（大学教育開発研究センターから2009年改名、以下大教センター）では、「自律と創生」という大学理念の下で教育目標が達成されるように、国際通用性のあるFDプログラムを提供し支援することを目指している。現在着手しているのは、先進的な欧米を参考にした「教員の教育的コンピテンシーの開発支援事業」や学習教育研究フォーラムの開催である。今回の視察は、これまで英独中心であった視察調査を改め、米国の最新のFD事情(特に国内外で注目されるSOTL運動の背景と実情)と学習環境・キャンパスづくりを調査することを主な目的とする。

＜日　程＞

3月　10日～12日　SOTL会議への自由参加（全員）
※11～12日ニューヨークの大学キャンパス視察班（石田、小坂、高橋）コロンビア大学（2001年SOTLスカラー)、ニューヨーク市立大学（SOTLヴィスコンシン大学システム協力校）訪問

15日　インディアナ大学ブルーミントン校（SOTLコモンズ拡大拠点校）視察
10：00～11：00　J.ミッデンドルフ教授と面談（全員）
(SOTL担当　学士課程担当副学長オフィースキャンパス教育カウンセリング)
11：00～12：00　ウィーミット教授と面談（全員）
(学士課程担当副学長補佐)
キャンパス内見学

16日　インディアナ大学ブルーミントン校視察
(H.ハドリー准教授・G.ハドリー非常勤講師)
H.ヴェレンガ博士と面談
(英語集中プログラム所長補佐)

＜メンバー＞

石田一正（学務部企画係長)、小坂和則（学務部学生係長)、高橋秀樹（人文社会教育科学系＜人文＞准教授)、津田純子（大学教育機能開発センター教授)、ハドリー浩美（教育支援センター准教授)、グレゴリー・ハドリー（経済学部非常勤講師、新潟国際情報大学教授）

視察報告

1．津田純子「米国におけるSOTL運動について」
2．ハドリー浩美「教員主体の教育改善」
3．高橋秀樹「米国視察訪問—①SOTL ②ニューヨーク③インディアナ大学」
4．グレゴリー・ハドリー「Report on Visit to Indiana University －英語集中プログラム」

インディアナ大学にて